

モアイ像が動きました

平成25年5月25日、南三陸町にチリのイースター島から世界初となる本物のモアイ像が贈られました。その後モアイは、日々変わりゆく町の復興状況を旧さんさん商店街から見守ってきました。

2月6日(火)、旧さんさん商店街から東へ約2km先の高台にある新しいさんさん商店街に商店主らが見守る中、モアイ像を移設しました。

モアイ像は、復興のシンボルとして南三陸町の人々に元気、勇気を与えてくれました。今後も復興していく南三陸町を見守ってくれることでしょう。

なお、今回の移設は一時的なもので、最終的には、さんさん商店街からさらに海側へ、平成32年度ごろ移設する予定です。



災害に備えて、応援協定締結

1月17日(水)、宮崎県都城市役所において、都城市と南三陸町との「災害時における相互応援協定」の調印式を行いました。

この応援協定は、両市町が災害で被災した際に、「救援、防疫、応急復旧等に必要な職員の派遣」「食料、飲料水及び生活必需品並びにその供給に当たり必要な資機材の提供」などを行うものです。

協定締結を終え池田^{たかひさ}宜永市長は、「応援協定は、同じ災害で被災しない遠隔地と結ぶことが大事であるという佐藤町長の意見に同感であり、また、これまでの職員派遣のご縁もあり今回の運びとなった。災害が発生した際には、お互い支援、補完できるようにしたい」と話しました。

本町の応援協定締結自治体は、山形県庄内町から始まり、長崎県南島原市、佐賀県多久市、鹿児島県伊佐市、長野県原村、山口県長門市、宮崎県都城市となり、7つの自治体と締結を行っています。



百寿のお祝い 佐藤きの江さん

2月8日(木)、百寿を迎えた佐藤きの江さんに、町からお祝い金と花束が贈られました。

昔のことを事細かに覚えており、記憶力が自慢のきの江さんは、家族からもしっかり者と尊敬されています。

編み物が趣味で、今は襟巻きづくりに熱中しているきの江さん。長生きの秘訣を聞くと「好き嫌いなく何でも食べ、自分のことは自分でしていれば大丈夫」とアドバイスをいただきました。

きの江さん、いつまでもお元気で。百寿おめでとうございます。



新保育所完成に児童笑顔

1月31日(水)、志津川保育所落成式が行われ、町長はじめ志津川保育所児童らが完成を祝いました。

現在の保育所は、東日本大震災の津波により建物の一部が被害を受けました。被災箇所を修繕し、震災から3カ月後の平成23年6月に同場所で再開しましたが、土砂災害警戒区域の指定や建物の老朽化のため、中央団地内への移転建設となりました。

式では、児童たちが「素敵な保育所を作ってくれてありがとう」とお礼の言葉を述べ、感謝の歌を歌いました。新しい志津川保育所は、児童や地域の皆さんに、愛され、親しまれながらたくさんの思い出を刻んでいくことでしょう。



県内初取得 優良衛生品質管理市場・漁港認定

平成28年6月に供用開始した南三陸町地方卸売市場で、これまで行ってきた高品質・高鮮度の取り組みと実績が評価され、この度、優良衛生品質管理市場・漁港認定を取得しました。

この認定制度は、一般社団法人日本水産会が平成17年度に開始した制度で、水産物の品質・衛生管理に優れた産地市場を認定するものです。国内でも限られた市場しか取得しておらず、宮城県内では初の取得であり、全国においては15カ所目の取得となりました。

今後は、この認定を励みに、消費者の皆さんへより一層、安心で安全な南三陸の海の幸を届けていきます。



生涯学習センターの安全を祈願して

1月23日(火)、南三陸町生涯学習センターの建設安全祈願祭が執り行われ、町長はじめ工事関係者らが安全を祈願しました。

東日本大震災以前、中央公民館と図書館がありましたが、震災で全壊しました。生涯学習センターは、公民館と図書館機能を併せ持つ複合施設として誕生します。延床面積1,780.52平方メートルの木造平屋建てのセンターは、FSC国際認証を取得した南三陸産材をふんだんに使い、役場・支所に続く第2号目のプロジェクト認証の取得を目指します。

生涯学習センターは、志津川中央団地から入ったすぐの所に建設しており、周辺には志津川保育所、志津川小・中学校があり、子どもから高齢者までが楽しめる施設作りを目指します。開館は、平成31年4月の予定です。

